スポ推の

南区伝達講習会

令和6年７月２１日（日）　南区スポーツセンター中体育館において

令和６年６月9日（日）に開催されたリーダー研修会に参加されたリーダーたちから「ゴールボール」を伝達されました。



会に先立ち、視覚障がいのある方との接し方、そしてその世界を少しでも感じるべく、アイマスクを装着して先導者（パートナー）と共に歩く体験をしました。



白杖をお持ちの方のお困りの様子を見受けられたら、ちゅうちょなく手を差し伸べることができる人になりたいと思います。
「小さな親切大きなお世話」とならないよう親切の押し付けには十分気を付けて、「大丈夫ですか？」「何かお手伝いがいりますか？」とさり気ない挨拶と会話から「見て見ぬふり」をしない大人でありたいと思います。
これは視覚障がいに限らず心身障がいをお持ちの方々、全てに対しての感情でありケアの基本ではないかと感じました。

ゴールボールとは？

ボールの転がる音や選手同士の掛け声、相手の動く物音、床の振動やラインの感触、視覚以外のすべての感覚を研ぎ澄まし戦うパラリンピック競技です。





ゴールボールは、視覚障がい者が男女別に行うチームスポーツです。
鈴の入ったボールを互いに投げ合い、得点を狙う対戦型競技。選手は音を頼りに競技するため、観客は競技の妨げにならないよう、プレー中に声を出して応援することができません。静寂の中で激しい攻防が繰り広げられる、障がい者スポーツ独自の競技です。




今回は男女混合チームで体験です。選手は視覚を完全に遮断するためのアイシェード（目隠し）を装着しプレーします。今回はマスクで代用しました。
使用するボールはバスケットボール（7号球）とほぼ同じですが、重さは１.２５㎏！
バスケットボールのほぼ2倍です。当たると結構痛いです(;・∀・)

正式には12分ハーフの２４分間ですが、体験では１０分程度で競技しました。使用するコートは6人制バレーボールのコートと同じ広さです。
守備をするエリアをオリエンテーションラインと言い、こちらのラインテープには床の間に糸を通して貼られています。この凸の感触を頼りに自分の位置を確認します。





コートの中にはランディングエリア（攻撃側と相手の守備側エリア）、ニュートラルエリアとラインが引かれて、投球時には攻撃側エリアとニュートラルエリア両方の床でバウンドしなければ反則※1となり、相手チームにペナルティスロー（サッカーのPKのようなもの）が与えられます。



※1　ペナルティスローになる反則は７つです！
1、ハイボール（ランディングエリアにバウンドなし）
2、ロングボール（ニュートラルエリアにバウンドなし）
3、ショートボール（相手エリアにボールが届かない）
4、アイシェード（試合中審判の許可なく触れてはいけない）
5、ノイズ（守備に不利な雑音）
6、イリーガルコーチング（ゲーム中のコート内の選手に指示）
7、１０セカンズ（守備側の選手が初めて触れてから10秒以内に投げ返す）



体験ではボールの所有権が移る反則、ボールオーバー（守備により跳ね返ったボールがセンターラインを越えたり投球したボールがサイドラインを越えてコート外に出る）、プリマチュアスロー（投球は審判の「プレー！」のコール後に速やかに行わないといけない）、デッドボール（投球したボールが相手に触れることなくチームエリア内に止まる）と、同じ扱いで競技を進めましたが、まずちゃんと投球できない！
そして、いつ？どこから？ボールがくるか、味方と自分の位置と距離感、ついつい発してしまう声などなど…聴覚と触覚に全集中しているつもりでしたが雑念邪念の自分にはとても難しく感じました。

